

令和3年度第1回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議 議事要録

◆日時 令和3年8月2日(月) 19:00~20:30

◆会場 いせシティプラザ 多目的ホール

◆出席委員

中村 龍平委員、河井 英利委員、福村 伝史委員、高木 俊宏委員、齋藤 平委員、廣島 朗委員、川上 貢司委員、北村 和也委員、秋山 純委員、山下 智史委員、秋山 則子委員、山川 一子委員

◆欠席委員

中村 基記委員、松山 泰久委員、安藤 大作委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局次長兼企画調整課長、企画調整課副参事、同課長補佐、同主幹、同職員2名、デジタル政策課長】

環境生活部【市民交流課長、同副参事】

教育委員会【学校教育課長、教育研究所長】

健康福祉部【健康福祉部参事兼福祉生活相談センター一長、健康課長、保育課長】

産業観光部【商工労政課長、農林水産課長、同課副参事、観光振興課長、観光誘客課長】

都市整備部【都市計画課長、交通政策課長、住宅政策課長】

◆内容と結果

1 諮問(諮問書のとおり)

2 第2期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について(事務局から説明)

【意見・質問等】

・P17の自治会活動の促進について、自治会だけでなく、まちづくり協議会も活性化できていない感じがする。まちづくり協議会には、自治会を盛り上げ、助ける役割も期待される中、高齢化も進んでいる。若い人を取り込むなど、活性化の取組が必要がある。

⇒コロナ禍で活動が減っているのは確かであり、イベント等について、開催の是非についての相談も多い。

・基本目標において、目標値を既に達成している項目や、計画策定時よりも低い目標を設定している項目があるが、こういった考えか。

・基本目標の指標の達成状況に、基本的方向・具体的施策の指標の達成状況が繋がっていないものがある。

⇒数値は年次的な増減があるものもあり、目標値を達成しているものについても目標値の再設定は慎重な対応が必要と考えている。また、計画策定時より低い目標を設

定しているものについては、人口減等により減少が見込まれる中、その減少幅を各種支援等により縮小することを目標としたものである。

- ・ P16の空家対策について、空家バンクの成約件数は目標に対し順調に進んでいるが、自治会としては管理不全な空家が放置されていることが問題となっている。利活用だけでなく除去等も進めてほしい。
- ・ 行政がすべてを担うのではなく、「地域のことは地域で」という考えも持ち、対応の一部を任せることも検討してほしい。（地域により、風通しを等の管理を行うなど）
⇒空家の実態調査はR2年度に行い、5年前と比較して空家そのものは減っているが、状態の悪い空家は増えている。次期空家等対策計画を進めているが、空家の状態悪化をいかに抑えるかを課題と認識している。
- ・ P2の具体的施策に「企業誘致の推進」とあるが、実際、市内の事業所からは建物の老朽化があるものの、まとまった土地や移るべき場所がないという声を聞くので市内のニーズに対応することが必要ではないか。また、大きな工場を誘致できれば人口も増えるので、本腰を入れて対策をする必要があるのではないか。
⇒企業誘致にしても、市内の事業所の移転にしても、なかなか土地がないのが現状である。また情報を教えて頂けたらと思う。
- ・ P12、13の教育の充実について、タブレットの整備が進んだようであるが、タブレットを運用することによる、「確かな学力」や「豊かな心」にどのように適用されているか。
⇒タブレット端末の整備については、国のGIGAスクール構想により、当初はR5年度までに児童生徒一人に一台を整備する予定であったが、コロナ禍により前倒しとなりR2年度に整備が完了した。
R元年度より小学校5年生を対象にタブレット端末利用の実証研究事業を先行的に実施しており、ただ配付するだけでは効果が薄く、教職員や保護者の働きかけをもって学力を伸ばすことにつながったと考えている。タブレット端末を活用することで、協働学習が可能となり、直接は発表ができない児童生徒の考えや意見等も共有することができ、それが認め合いの姿勢や自尊感情を育てていることが伺え、豊かな心の育成につながっていると感じている。
- ・ P6のテレワークについての状況やニーズをどのように把握・評価しているか。
- ・ P9の三重大との連携強化について具体的に何か取組があれば教えてほしい。
- ・ 高校生への就職促進について市の取組があれば教えてほしい。
⇒ ・ テレワーク等の対応に遅れが見られる一方、採用活動においてはオンライン面接の導入も見られる。若者向けに「南三重地域就労対策協議会」を立ち上げ、地元での就職、定着のための取組を進める。
 - ・ 三重大とは、伊勢志摩サテライト等の取組で連携しているが、具体的な市の事業としての取組は現在無い状況である。
 - ・ 高校生に対する地元（伊勢市への）就職についても特別なことは実施していない

のが現状であるが、地元志向が強くなっているとの話もある中、地元就職・定住を促進できるよう、知恵を絞って取り組んでいきたい。

以下枠内については、欠席委員からの事前質問とそれに対する回答

・P3「経営力向上支援事業」について、当事業に関しては、支援制度の利用率の現状は？支援内容の告知は十分行われているのか？支援を利用しやすい状況になっていることが大事だと思います。

⇒当事業は次の2つの事業があります。

①中小企業者が対象となる融資を受けた場合に、その融資にかかる利子の一部を補助

②三重県が認定する「三重県版経営向上計画」に基づき、経営課題の解決に向け行う取り組みにかかる経費の一部を補助

利用率については①45.8%、②26.3%です。

決算額はそれぞれ①12,354,649円、②2,107,000円であり、令和元年度は①12,876,240円、②7,776,000円となっています。

特に②については、コロナ禍において事業の継続や課題解決を図ろうとした際に、より有利な国や県の支援制度を活用できたため、大幅に利用が減ったものと考えています。

いずれも中小企業者を支援する事業ですので、支援の内容や利用条件を含め、告知に努めていきます。

・P11「保育士確保事業」について、当事業の効果について教えてほしい。保育士確保は十分確保されているのか？効果測定が大事だと思います。

⇒待機児童対策における保育士確保を目的に、令和2年度新規事業として保育士確保事業を立ち上げました。当初計画していた私立保育所等との「保育士就職フェア」、「保育所見学ツアー」等は新型コロナウイルスの感染拡大により事業を行うことができませんでしたが、保育士への就職、復職の働きがけを行うため、保育士という職業の魅力を映像化し、市のホームページで公開するとともに、保育士養成校を訪問しPR動画の提供など情報共有を行いました。

また、保育士の業務負担を軽減し、離職を防ぐため、私立保育所等に対し、保育にかかる周辺業務を行う職員や短時間勤務の保育補助者の雇用にかかる人件費の補助を行いました。

三重県が実施した「令和3年度保育士等採用状況調査」による伊勢市の令和3年度当初に採用しなかった保育士の採用率は、公立保育所については68%、私立保育所等については72%の結果となっています。行った事業全てがこの数字に反映するわけではありませんが、今後も保育士対策確保に取り組んでいく必要があると考えています。

・P13「学校教育支援事業」について、当事業に関連し、全国的（特に都会では）民間企業のプロ人材の積極的登用の流れもある。新たな教育内容も増える中で、民間

企業のプロ人材の積極的登用を盛り込んではいかがでしょうか。

⇒現在、市内小中学校では、子どもたちの学力向上や定着等、様々な教育課題の解決に向け、地域の教育力を活用した教育支援ボランティアの力を活用しつつ取り組んでいるところです。

ご指摘のとおり、その課題解決に精通した方の力を積極的に活用することは効果的であるため、そのような地域人材の発掘を進めていきたいと考えております。

3 意見交換

- ・企業誘致の件で市内に大きな土地はないとの話があったが、学校統廃合により学校跡地が出来てきているので、これを活用するためのビジョンが必要ではないか。
⇒公共施設全般において、今後の在り方・活用について長期的視点に立ちつつ、整理していきたい。
- ・伊勢は魅力がある地域なのになぜ若者が定着しないのか不思議である。若者の定着で成功しているモデル都市を見つけて学ぶことを考えてはどうか。
⇒全体としてモデルを設定してはいないが、個別の取組等を検討するにあたっては、適宜、ベンチマーキングしながら推進している。
- ・P7外国人参拝者数について、目標値を16万人と設定した理由を教えてください。
⇒市としては、神宮を中心とした文化に関心が高い欧米系を主なターゲットに誘客を行っている。伊勢志摩広域としては、アジア系にもPRしている。計画策定当時は、伊勢志摩サミット以後の需用を踏まえ予測し、設定したもの。現在はコロナで厳しい状況になっている。現在、次期観光振興基本計画の策定を進めており、その中で、今後の目標等について検討中である。
- ・コロナの影響が大きい中、民間企業としても様々な努力、地域貢献をしている。飲食店・観光業への独自の取組があれば教えてください。
⇒クラウドファンディングを活用した飲食店支援や商品券事業、クリエイターズ・ワークショップ等を実施してきた。今後も情勢を見ながら対策を検討していく。
- ・新規就農者については、倉庫（農舎）がないことがネックになっていることを聞くが、空家バンクに農舎が含まれているか。
⇒空家バンクへの登録は住居のみとなっている。
- ・今年の米は豊作が予想される中、飲食店の営業が厳しいと、農作物の消費にも影響する。農家への直接支援もありがたいが、地産地消の店の推進など、経済の好循環を生む取組も検討してほしい。
⇒現在の「地産地消の店」については、情報発信以外の特典が提供できていない。メリットを感じていただけるような、また、好循環を生むような施策について検討していきたい。

- ・ 障がい者サポーター制度について、活動実践への展開はどう考えているのか。
⇒今のところは理解を広めることを重点におき、まずは養成に努め、また、イベント等への協力依頼等を行っている。今後、社会福祉協議会と連携しながら、活躍いただける活動機会の提供等について検討していきたい。
- ・ 市内の景況について、税収から見える部分もあると思うが、状況はどうか。
⇒本日、資料を持ち合わせていない。後日、情報提供させていただく。
- ・ 様々な問題について、分析が大事であり、分析が誤れば手段の選択も誤る。また、手段の検討にあたっては、様々な課題も出てくるが、関係者等とオープンな議論をすることで解決手段が見いだせることもある。分析とオープンな議論に努めてほしい。
- ・ 国勢調査における人口動態について、よくここまででとどまったと感じる。

以上